（３－２）身近な見守り･支えあい

安全・安心

◆具体的な取組

●**地域における要援護者見守りネットワーク強化事業**

①**CSWによる要援護者名簿にかかる同意確認・名簿整理**（通年）
②**CSWによる孤立世帯等への専門的対応**（通年）
③**「認知症高齢者見守りネットワーク」による徘徊者保護の強化**（通年）
(CSW：見守り支援ネットワーカー)

●**ご近“助”パワフルサポート事業**

①高齢者や障がい者等への日常生活の困りごとに対する支援など、**行政の画一的な制度だけでは対応しきれない課題**を持ち、支援を必要とする人に対し、**福祉コーディネーターが地域ボランティアとのマッチング（連携）を支援。**（通年）
②支援の必要な人が地域の支援の輪に繋がることで、**地域住民同士が助け合う**福祉のまちづくりが自発的に推進される**仕組みをコーディネート**する。（通年）

◎業績目標

各地域に配置した**福祉コーディネーターの相談受付件数**
：前年度の相談受付件数以上

※福祉コーディネーターの相談受付件数　H30年度1,531件　R元年度1,883件（12月末）

２／２

（３－３）「地域包括ケアシステム」の推進

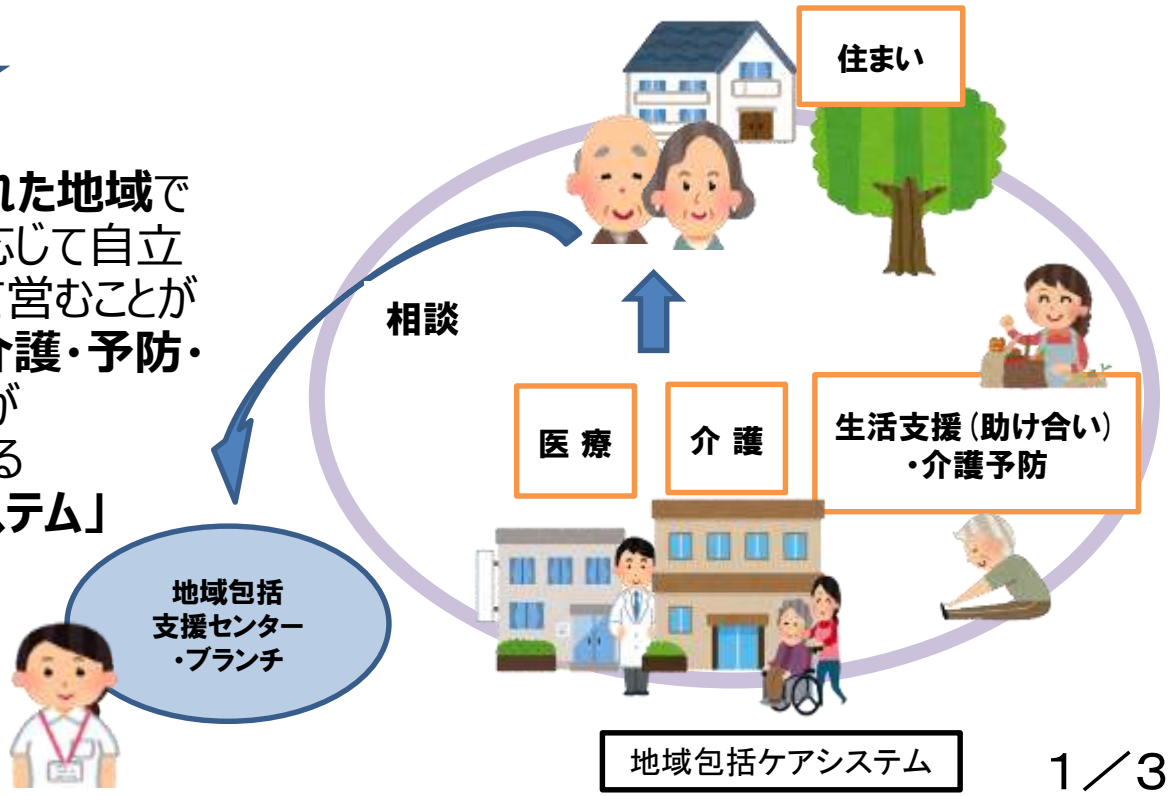
区予算算定見込額　　－　千円

◆現状・課題

生野区では、**ひとり暮らし高齢者や要介護認定者の割合が大阪市平均より高く**、 支援の必要性が高い。

高齢化率（31.4%）・単身高齢者率（20.6%）24区中2位(H27国勢調査)

高齢者が 住み慣れた地域で
その有する能力に応じて自立
した生活を安心して営むことが
できるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援**が
一体的に提供される
「地域包括ケアシステム」
による支援が必要。



地域包括ケアシステム

1／3

安全・安心

（３－３）「地域包括ケアシステム」の推進

安全・安心

◆具体的な取組

- ●医療・介護の専門職による、**在宅医療・介護連携**を推進
  （在宅支援ネットワーク会議・シンポジウム等）
- ●**多職種連携による**認知症に関する普及啓発や事例検証等の対応力向上
  （認知症高齢者支援ネットワーク会議等※在宅支援ネットワーク会議と同時）
- ●介護予防・生活支援サービス事業の充実、円滑な運用に向けた取組
- ●高齢者の自立支援、重度化防止に向けた取り組み
  （自立支援型ケアマネジメント会議）

◎業績目標

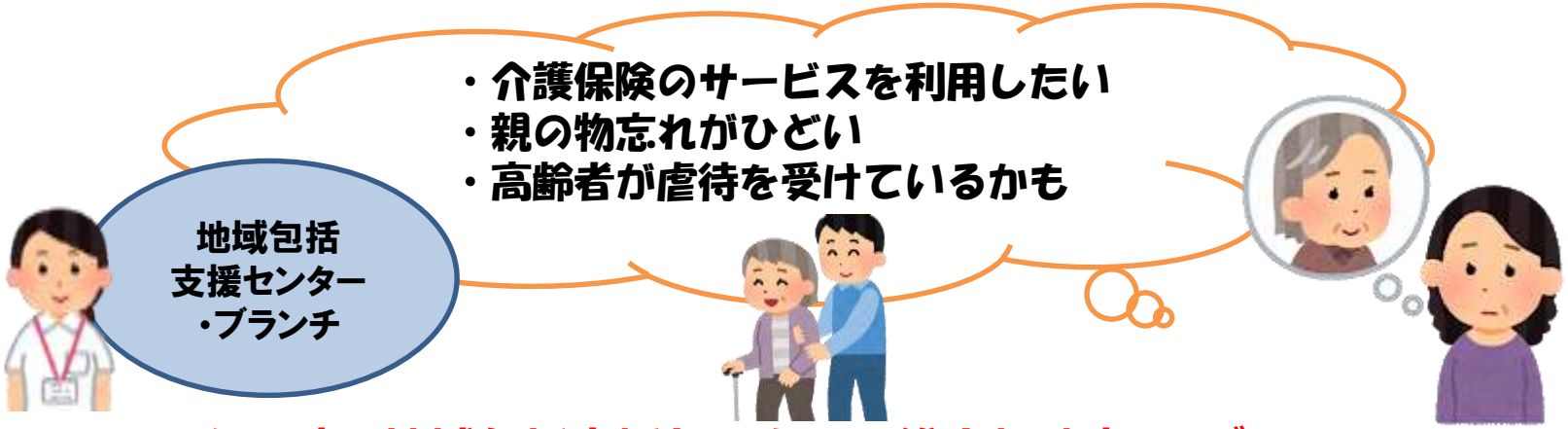
区内４つの**地域包括支援センターの相談延件数が、区内高齢者人口の55%以上**

※65歳以上の高齢者数：38,118人
（令和元年12月末時点）

<多職種連携　在宅支援・認知症ワールドカフェ>

２／３

（３－３）「地域包括ケアシステム」の推進



こんな時は地域包括支援センター・総合相談窓口(ブランチ)へ！

●生野区地域包括支援センター
舎利寺・勝山・東桃谷・生野
西生野・林寺地域
☎　06-6712-3103
◆生野東ブランチ　☎　6715-2188

●東生野地域包括支援センター
東中川・小路・東小路地域
☎　06-6758-8816

●鶴橋地域包括支援センター
御幸森・中川・北鶴橋・鶴橋地域
☎　06-6715-0236
◆大池ブランチ　☎　6753-6580

●巽地域包括支援センター
生野南・田島・巽・北巽・巽南・巽東地域
☎　06-6756-7400
◆田島ブランチ　☎　6751-1271
◆新生野ブランチ☎　6758-0088
◆新巽ブランチ　☎　6752-0003

3／3

（３－４）持続可能な地域公共交通の検討

区予算算定見込額　273千円

◆現状・課題

- 区内は鉄道・バス・BRTなど交通手段は一定存在するが、**南西部・南東部には交通空白地域がある**（鉄道駅から半径500m、バス停留所から半径350mを超える地域を想定）。
- 65歳以上人口割合が31.4%（全市で2位　平成27年国勢調査）、**高齢者の免許返納などを考慮すると、公共交通の役割がより一層重要**になる。
- これまでも、福祉有償運送事業の支援・育成や、地域における公共交通勉強会などを行ってきたが、なかなか効果があがらなかった。

◆具体的な取組

- 区社協、地域包括支援センター、事業者、地域との**会議体をつくり、**福祉有償運送や福祉的な観点からの**ボランティア輸送を検討**。
- 地域、事業者、専門家などで構成する 「生野区地域公共交通検討会」を設置し、持続可能な**生野区にふさわしい地域公共交通の導入に向けた検討**を行う。

1／2

安全・安心

（３－４）持続可能な地域公共交通の検討

安全・安心

◆持続可能な地域公共交通のこれまでの検討状況

●**生野区地域公共交通勉強会（R1.8.7）**
・専門家による地域交通の現状、取組事例の紹介
・参加者による意見交換会

●**第１回 生野区地域公共交通検討会（R1.11.6）**
・勉強会参加者を中心により具体的な検討
・運行経費の積算、デマンド交通の紹介など

●**第２回 生野区地域公共交通検討会（R2.2.14）**
・タクシー事業者による講義、デマンド交通の検討など
⇒　今後、定期的に検討会を開催し、モデル事業の実施など、持続可能な地域公共交通の実現に向け、取組を進める。

<生野区地域公共交通検討会の様子>

◎業績目標

「生野区地域公共交通検討会」において、交通手段、ルート、運行主体などについて議論し、**持続可能な公共交通の導入に向けた計画を策定**する。

２／２

（４－１）真に支援が必要な方への確実な対応

区予算算定見込額　12,889千円

◆現状・課題

高齢者、障がい者、こども、ひとり親家庭、生活困窮者など**支援を必要とする全ての人々が社会全体とつながりを持ち、必要なサービスが確実に届く、取りこぼしのない支援**が求められている。

◆具体的な取組

●虐待の早期発見・早期対応と再発防止に向けた啓発

●**「くらしの相談窓口いくの」による各種相談・就労支援**

●生活困窮者、若年層を含む生活困窮に陥る恐れのある方の早期発見と支援体制の検討
⇒ **支援会議の開催**

●複合的な課題を持ち、既存のしくみでは解決できない困難事例に対し、各関係機関が連携
⇒ **「総合的な支援調整の場（つながる場）」を開催**

1／3

安全・安心

（４－１）真に支援が必要な方への確実な対応

●**重大児童虐待ゼロを目指した取り組み**

・すべてのこどもが笑顔で暮らせるまちをめざして、「生野区まちぐるみ子育て宣言」を行い、協力の輪をひろげる。
・「こども地域包括ケアシステム」を構築し、気になるこどもの早期発見や支援に取り組む。（次ページ参照）
・子育て相談体制を充実し、福祉的課題のある家庭に定期的な見守り・支援を行う。
・学校と区役所が連携し、「こどもサポートネット事業」による総合的支援を効果的に行う。（こどもの貧困対策関連の取組）

●**里親制度の普及啓発(区広報紙への掲載等)**

⇒ 里親の確保に向けた普及啓発の強化(さとおやパネル展、相談会の開催等)

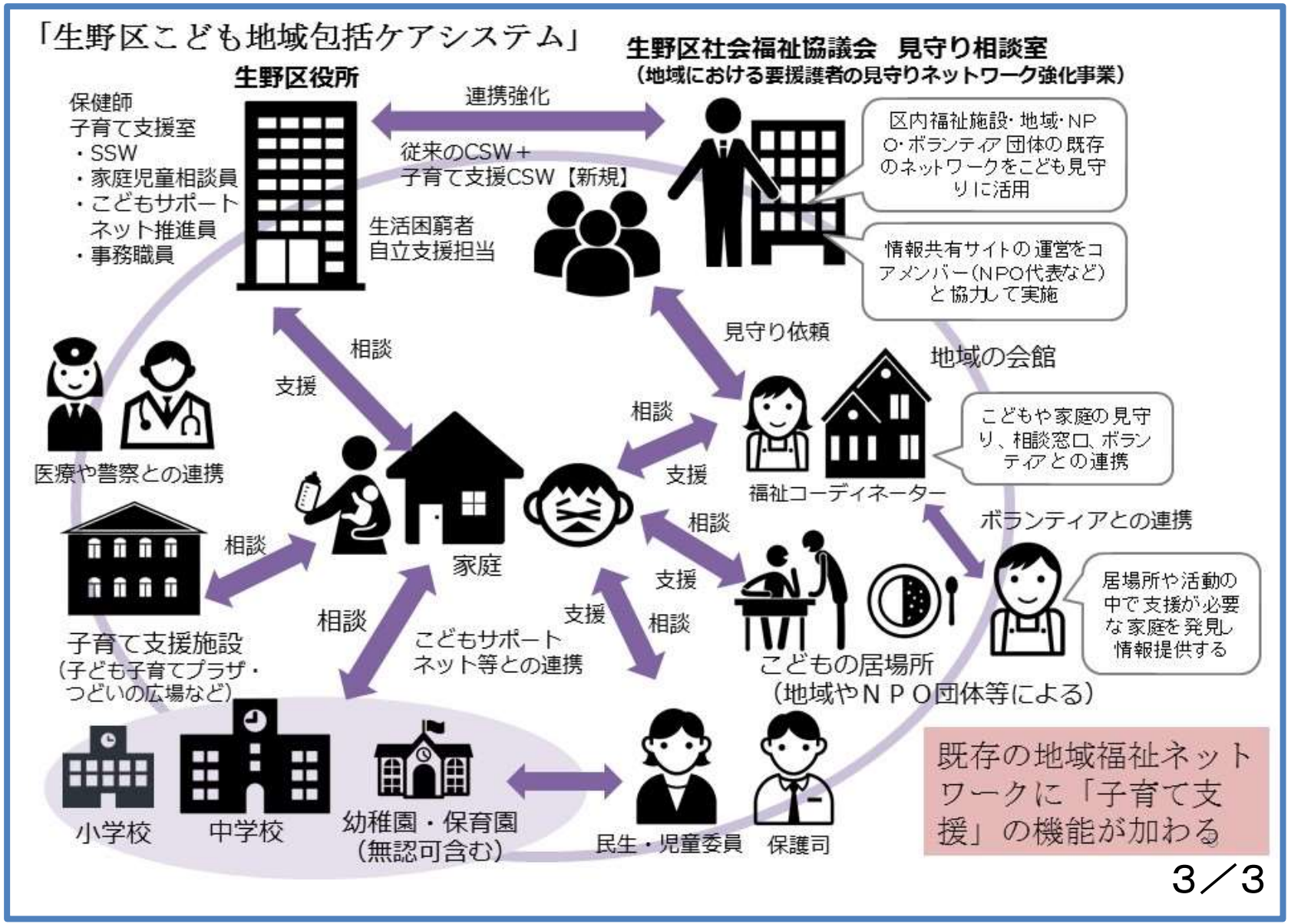
・里親制度の理解と協力を得るため、街頭や各種イベントにおいて、積極的に啓発活動を行う。

◎業績目標

●**重大虐待ゼロの状態を維持**する。
●こども虐待や高齢者虐待などの専門家、支援機関、学校や保育園が参加した**ワークショップ（連絡会）でのアンケート結果**で、**理解が深まったという意見：75%以上**

２／３

（４－１）真に支援が必要な方への確実な対応



（４－２）貧困の連鎖を断ち切るための支援

安全・安心

◆現状・課題

教科(国語・数学（算数）・英語)に関する調査について、
大阪市は**全教科で全国平均を下回る**(H31)

普段の勉強時間について**「全くしない」**と
答えるこどもの割合(H28)

小学５年生　生野区：　7.1%　大阪市：　6.8%
中学２年生　生野区：14.8%　大阪市：13.6%

(経済的な理由で)
「こどもを**学習塾に通わせることができなかった**」と
答える保護者の割合(H28)

中学２年生保護者
生野区：12.7%　大阪市：11.9%

1／3

（４－２）貧困の連鎖を断ち切るための支援

※こども未来部会関連：(2-2)次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現）と同取組

安全・安心

区予算算定見込額　3,143千円

◆具体的な取組

●**生きるチカラを育む課外授業**　※こどもの貧困対策関連の取組

民間事業者等を活用した大学生等による『**悩み相談**』と『**課外学習**』

⇒ **基礎学力の向上と自己肯定感の醸成**をはかり、**「自ら学ぶ力」の定着**をめざす。

令和2年度 開校予定 （令和元年度に引き続き4校）
大池中・東生野中・田島中・新生野中

◎業績目標

参加者に対し事業実施前と後にアンケートを行う。
⇒ **「1日にどれくらいの時間、家庭学習をしていますか」**という問に対する回答として、**「30分より少ない」「全くしない」**と答える生徒の割合を**半減**させる

2／3

（４－２）貧困の連鎖を断ち切るための支援

※こども未来部会関連：(2-2)次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現）と同取組

安全・安心

◆具体的な取組

区予算算定見込額　1,589千円

●生きるチカラまなびサポート事業　※こどもの貧困対策関連の取組

「キャリア教育」や**「性・生教育」**を支援する**「生きるチカラまなびサポーター」**を学校の要請に応じて派遣

⇒ 登録講師や講座数を増やすなど、より学校が使いやすい仕組みとする

【プログラミング授業】

【赤ちゃんとふれあう授業】

◎業績目標

児童・生徒に対し、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問について、**「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」といった否定的な回答を答える受講者の割合：**

小学校、中学校とも、６.0%未満

3／3

（５－１）人々の多様性を尊重し、認めあえる環境づくり

区予算算定見込額　1,404千円

◆現状・課題

人権啓発推進員と連携して、高齢者や障がい者、外国籍住民などの様々な人権に関する課題解決に向け取り組んでいるが、従来の人権尊重・人権擁護への取組に加えて、近年課題と認識されてきたＬＧＢＴやヘイトスピーチなど多様な人権課題への理解を深める必要がある。

◆具体的な取組

- **地域人権講座**の開催　４回
- **人権啓発事業（講演会、映画会など）**の開催　３回
- **広報誌「ふれあい」**の発行　１回

◎業績目標

各事業（講座・講演会）の参加者アンケート：理解度９０％以上

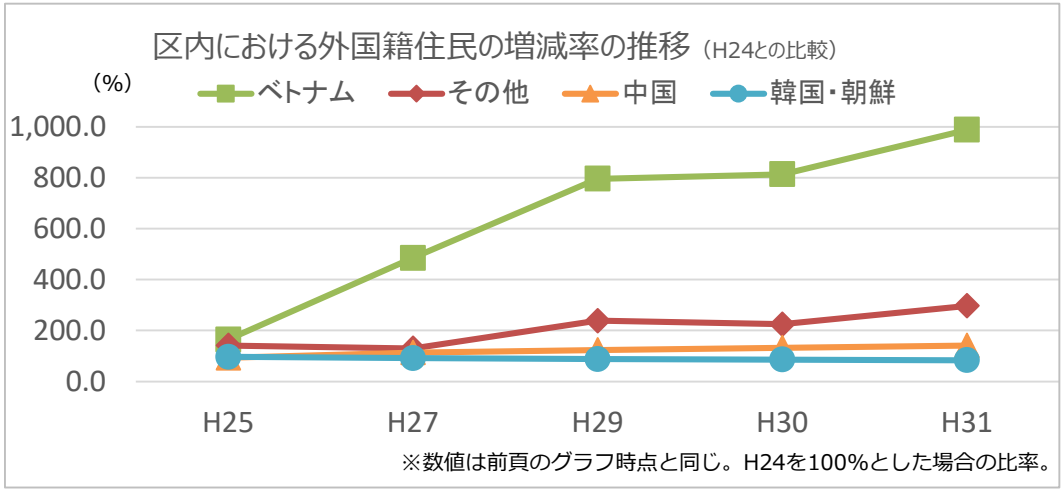
安全・安心

（５－２）外国籍住民とのコミュニケーション媒体の活用・地域住民との交流促進

◆現状・課題

区予算額　495千円

●生野区では、これまでも在日韓国・朝鮮人をはじめとした外国籍住民の人権、多文化への理解、啓発促進に取り組んできたが、近年は**多様な国籍のニューカマーの方々の増加が顕著**となっている。



区内における外国籍住民の推移　（人）

	平成24年	平成31年	増減	備考
韓国・朝鮮	26,215	21,777	▲ 4,438	
中国	1,765	2,489	724	1.41倍
ベトナム	211	2,085	1,874	9.88倍
その他	423	1,257	834	2.97倍
総数	28,614	27,608	▲ 1,006	

※上記グラフ及び表のデータについて・・・平成29年以前は、12月末時点。平成30年以降は、3月末時点。

●一方で、外国籍住民のための必要な情報の多言語化が不十分で、防災情報や生活情報が必ずしも伝達できておらず、また、外国籍住民が地域住民の一員として地域コミュニティに参加できる機会が少ないため、ニューカマーを含めた**すべての外国籍住民を対象にした取組が必要**である。